

# 組合の動き

## 共同受注事業・メンテナンス業務幹旋事業参加業者説明会を開催

平成23年度組合の共同受注事業・メンテナンス業務幹旋事業の説明会が、事業への参加業者を対象に、4月から順次開催されました。

共同受注事業は、和歌山市水道局から組合が受注した業務委託工事で、「上工水給配水管修繕及び改善業務委託」と「量水器検定満期取替業務委託」があります。共同受注事業の説明会は、事務局長と事業部部長から、事業への参加規定と工事仕様書に基づいて、説明がなされました。

特に「上工水給配水管修繕及び改善業務」への参加規定は、所持機材や施工力の条件は勿論のこと、関連資格所持者の

現場常駐、現場4人体制の徹底、交通誘導員の配置、産業廃棄物収集運搬業の許可取得と第三者損害賠償責任保険への加入等があり、施工レベルを向上させています。

また、メンテナンス業務幹旋事業は、本格的に発足して2年が経過し、昨年の幹旋実績は527件でした。説明会では、事務局長から諸事例に基づいての修理工事施工の留意点や適正な修理代金の請求の仕方、顧客との信頼関係の築き方など、参加事業者の顧客への対応などの説明があり、参加事業者のレベルアップをはかりました。

## みんなの気持ちを被災地へ!! 東日本大震災への義援金支援

3月末に、全国管工事業協同組合連合会から、東日本大震災で被災された方の支援として、義援金の要請がありました。私たちの組合では、全組合員に呼びかけた結果、組合員50社と組合職員のご協力をいただき義援金総額1,092,000円が集まりました。和歌山市の組合に寄せられた義援金は県連合会でまとめて全管連へ送

られ、4月28日に、全国管工事業協同組合連合会会長大澤規郎氏より全国からの義援金総額7,700万円が、厚生労働大臣に贈呈されました。

この義援金が、一日も早く被災された方々にお役に立ちますことを期待いたします。



# 青年部の動き

## 水道週間 ～蛇口からあふれるぼくらの夢・未来～

今年も、厚生労働省主催による第53回水道週間行事が各地で開催され、組合青年部も例年の事業として、水道週間の初日（6月1日）に、JR和歌山駅・南海和歌山市駅に分かれ、当組合の名が入ったティッシュ・チラシを市民の皆さんに配布しました。

当日は、雨にもかかわらず、青年部役員9名が、朝の7時から仕事に行くまでの間で、2,000個のティッシュを配りきりました。皆さん、お忙しい中ご苦勞さまでした。今年の水道週間スローガンは、「蛇口からあふれるぼくらの夢・未来」でした。



南海和歌山市駅にて



## 「第9回親睦ボーリング大会」開催

恒例の、青年部主催「第9回親睦ボーリング大会」が、3月26日(土)にインターボウルで開催されました。組合員、従業員を始め、家族並びに事務局、合わせて総勢104名が参加のボーリング大会となりました。

当日は、宇治田青年部会長 [ウジタ設備工業(株)] のズッコケ始球式でスタート! (話を聞くと、冗談ではなく真剣に転んでしまったそうです。さすがは…笑)

毎年、小さいチビッコの多いレーンはゲームの進行が遅れがちでしたが、今年はレーン数を増やし、少人数でレーン分けをしたので、例年よりもスムーズにゲーム進行ができ、無事に終了しました。(順位表の機械集計に時間がかかった為、表彰式開始までの間、少し待っていただきましたが…)

今回の結果は、過去にも上位入賞している常連メンバーの顔ぶれとなりました。

- 優勝 湯川幸司 [湯川水道工業所]
- 2位 岩本新吾 [中村設備工業(株)]
- 3位 池田直仁 [I.K.Dイケダ設備サービス]
- 4位 成田朋子 [組合事務局]
- 5位 植野 誠 [株小佐田設備工業]

みなさんおめでとうございます。

今回も、優勝、2位、3位、チビッコ参加賞にしか景品は無く、それ以外の景品はすべて、順位の数字



によるガラガラ抽選でした。今回の特賞（液晶テレビ）をゲットしたのは、成田浩平くん（組合事務局）成田さんの息子さんでした。なんと!去年は娘さんが特賞をゲットして、成田家特賞二連覇とはかなりのサプライズでした!おめでとうございます。めざせ特賞三連覇!!! それと、毎年景品にバナナを提供してくれています、石橋社長 [有石橋工務店] に加え、西岡社長 [有西岡水道店] と湯川社長 [湯川水道工業所] にも景品の提供をしていただきました。合計60景品もの数になり、どうもありがとうございました。

次回も、みなさんご参加ご協力よろしくお願ひします!



# エコクラブ探検隊2011



今年度は、例年とは違って早い時期での開催となりました「エコクラブ探検隊2011」が、6月6日(月)当組合青年部により開催されました。

今年も、和歌山市教育委員会のご協力により、雄湊小学校4年生の(29名)児童の皆さんに参加していただきました。

エコクラブ探検隊は、全国管工事業協同組合連合会青年部協議会の環境問題研究事業の一環として始まり、当組合青年部でも、「水のリサイクル」をテーマに、小学4年生を対象に真砂浄水場(和歌山市水道局)・紀の川大堰「水ときらめき紀の川館」(国土交通省)・中央終末処理場(和歌山市下水道部)の3施設を見学して、上下水道のしくみと水の大切さを勉強してもらっています。

当日は、雄湊小学校の児童たちが大型バスに乗り込み、午前8時40分にスタート。最初の和歌山市で一番古い「真砂浄水場」(大正14年より)では、生物によって水のごりや汚れを取り除く、緩速ろ過法の説明を聞き、「水ときらめき紀の川館」では、紀の川大堰の役割や、魚道観察室を見学しました。最後の「中央終末処理場」では、沈殿池を見学しながら、汚れた水がきれいになっていく仕組みなどの説明を聞き、予定していた時間内の午後3時には雄湊小学校に到着し、無事に終了しました。

毎年、このエコクラブ探検隊は、青年部事業の都合上、11月、12月の時期に開催していましたが、水ときらめき紀の川館の魚道観察室ではいつも、時期外れの為、魚が通らず、魚の遡上を見学できたことが

ありませんでした。そこで、今回は、児童たちに魚の遡上を見学させてあげたいと思い、今年は魚の見える時期の、6月に開催することになりました。(時期が良くても、その日の条件が合わないと見えないみたいですが...)当日、大群とまではいきませんでした、数匹の魚の遡上が見学でき、児童たちも喜んでいました。青年部としても時期変更の開催は大成功でした。

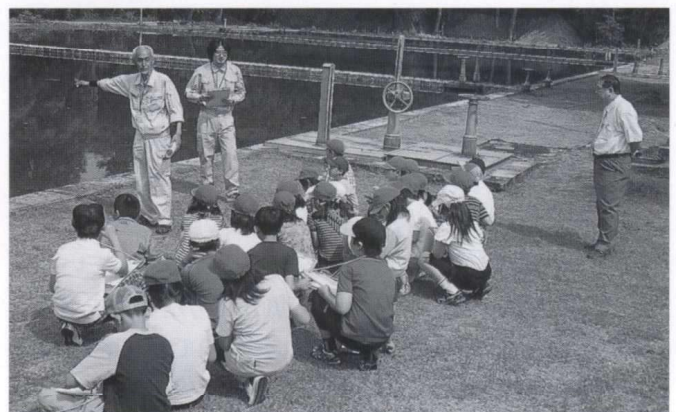
参加児童から感想文を頂きましたので、一部ご紹介させていただきます。

## 「エコクラブ探検隊に参加して」

雄湊小学校 四年 坂口ひびき

### 〈真砂浄水場〉

浄水場には、プールみたいな水をためているところがあって、きれいな水をためているところと、きたない水をためているところにわかれていました。水を通すパイプの太さは50cmで浄水場では、一日一万六千トンもの



真砂浄水場





水ときらめき紀の川館

水を作っているとおしえてもらいました。和歌山城には五千五百トンの水をためているときいてびっくりしました。  
〈紀ノ川館〉

紀ノ川館では、大ぜきの勉強をしました。紀ノ川の水がかれて水がなくなっても大ぜきでせきとめているから大丈夫としてほっとしました。魚のとぶところも見る事ができてうれしかったです。

〈終末しより場〉

終末しより場では使った水をきれいにして川にもどす所をまなびました。そして、川の水はまたじょう水場におくられます。水は、じゅんかんしているということならってエコだなんて思いました。

いろいろ教えてもらってとても勉強になりました。ありがとうございました。

#### 雄湊小学校 四年 土屋 奈未

真砂浄水場では、紀の川の底から地下を通して2つのポンプで水を送ります。どうして2つあるのかというと一つのポンプだと水の量は限られていて、夏になるとみんながたくさん水を使うので2つあると聞きました。次は下に、石をひいてその上に砂をひいて細かいゴミを取って塩素消毒をして南と北に分けて水を送っていて北には城内配水地におくって家などに送っている南と北にはパイプ50cmで送っている。そして、きかいがあって4号まであってそのうちの2つ使っていて、残りの2つはこわれたときにかわりに使う。

次は水ときらめき紀の川館で、紀の川館では紀の川大堰を使っていろんなことをしていました。それをまず見せてもらいました。大堰にはゲートが7つあって、ゲート一つの重さは498tで上に上げるのに44分かかって、洪水の時は、上げて、安全に役立っていて、昔は「すくいごし」というせきの上に魚をどける作業をしていたから大堰ができて魚道が出来て魚が通りたい道を好きなように通れるようになって、それを室内で見て、それを見ながらお弁当を食べました。

最後に中央終末処理場では、きたなくなった水をき

れいにする仕事をしていて、それをする小さい動物は1/20ぐらいの微生物が小さいゴミを食べてきれいになります。使い終わったきたない水を処理場がきれいにして川に流してをくり返すことを水のじゅんかんと言います。工場を見学しました。中は、めいろみたいでみんなが使った水は緑色ぼくって虫もいっぱい飛んでいました。次は茶色ぼくなっていた時は、微生物がゴミを食べて消毒して、きれいな水になった。エコクラブ探検をいろんな所に連れていってくれてありがとうございます。おかげで、いろんな事を勉強できました。

#### 雄湊小学校 四年 野村 真由

○真砂浄水場

浄水場できれいになった水は、ちよくせつ家に送っていると思っていたけれど和歌山城にためてから、家に送っているということが分かったことです。それと、一日に一万六千トンの水を出していることも分かりました。

○紀の川館

紀の川大ぜきのゲートの長さは五百四十二メートルもあるとは、思いませんでした。それと、ゲートが下がっていると、魚が泳げなくなると思っていたけれど魚道があったのでほっとしました。

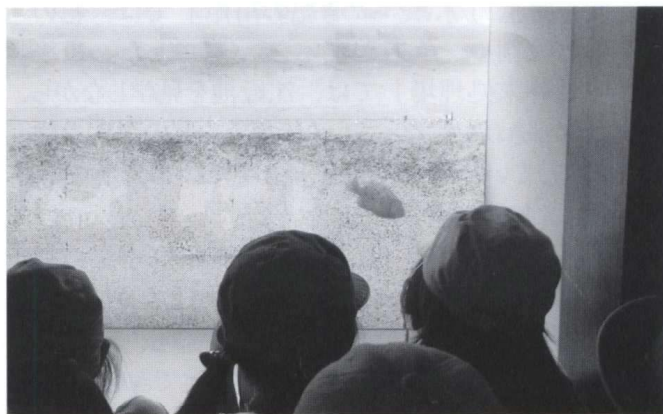
大ぜきのやくめは必要な水をためておくこと、海水と真水を分けること、こう水の時に水を流すこと、自然にやさしい川にすることなどのたくさんの仕事あるとは思いませんでした。

○中央終まつしより場

下水道は家であつたきたない水だけをながすと思っていたけれど、雨水も流しているとは思ってませんでした。和歌山の終まつしより場は三つしかないから、和歌山の全部の家の水をきれいにするのかな?と思いました。

○お礼

エコクラブ探検隊につれていっていろいろな水のことが分かりました。ありがとうございました。



魚の遡上が見えました





## 夏といえば花火

花火大会でかかる掛け声といえば“たまやー”“かぎやー”ですが、(といっても実際にこんな掛け声を聞いたことはありませんが)これは、玉屋(1659年創業)と鍵屋(1810年創業)という花火屋の屋号で、玉屋は鍵屋から分家して始めた花火業者でした。

両国の川開きの花火大会(現在の隅田川花火大会)では、鍵屋、玉屋の2大花火師が競演をし、一時は分家の玉屋の人気は鍵屋をしのいでいたようです。

しかし、1843年玉屋が失火により全焼し、町並みを半丁ほど類焼させてしまうという騒動を起こしたため、財産を没収され、江戸追放となり、玉屋は一代で家名断絶となりました。鍵屋は現在花火の製造は行っていませんが、打上の専門業者になっているそうです。

花火大会は全国いたるところで開催されていてその数は約200以上とされています。

その中で日本の三大花火大会といえばまず秋田県の全国花火競技大会で、大曲の花火といわれ、参加30業者という枠の中で花火師達が腕を競います。打上げられる花火の総数は約15,000発です。

2つ目は茨城県土浦市の土浦全国花火競技大会で、この大会では参加する花火業者を制限していないため60ほどの業者の花火師が参加します。打上げられる花火の数は約20,000発で、秋口に行われるため夏の締めくくりとなり、次の年に使

われる新しい花火を見られる大会です。

3つ目は新潟県の長岡祭り大花火大会です。この大会は日本三大花火大会の中で唯一競技大会でなく、2日間にわたり20,000発が打上げられ、10号玉の100連発などもあるそうです。

10号玉は尺玉とも呼ばれ直径約28cmで打上げられる高さは約330m、開いた直径は280m~300mもあります。

世界最大といわれている花火の玉は、40号玉(四尺玉)で玉の直径は約114cmで高さ550m~600mの高さまで打上げられ、開くと直径は約700mになります。

この世界一の大き玉は、新潟県小千谷市片貝町の片貝まつりで打上げられます。

ちなみに和歌山市の港まつり花火大会では、打上げられる花火は3,000発で最大の花火は10号玉(尺玉)だそうです。

皆さんもこの夏各地の花火大会に出かけて暑さを吹き飛ばしてみたいはいかがですか。



会社訪問



おじゃマンⅡ号の  
**儲かりまっか!**  
大 換



保田設備工業株式会社  
和歌山市福島571番地の8

会社概要

代表取締役 保田 敏 宏  
昭和48年9月26日生 37歳

設 立 昭和46年実父保田匡弘氏（65歳）が設立、昭和51年株式会社に、昭和56年管組合加入、平成22年5月現社長が就任

工事概要 給排水衛生設備工事（戸建）・本管布設工事（分譲地）

従業員数 5名 事務2人

資格等 1級管工事・土木施工管理技士 浄化槽設備士 給水装置工事主任技術者 1級配管技能士 他

家 族 妻

おじゃマンⅡ号の「もうかりまっか!会社訪問」は、必殺仕事人こと、保田設備工業株式会社新社長、保田敏宏氏にインタビュー。

おじゃマンⅡ号：保田社長、戸建住宅が、主だそうですが年間何件ぐらい工事してます？



保田社長

保田社長：和歌山市内を主にしてるんやけど最近は100件弱ぐらいかな。

おじゃマンⅡ号：結構してますねー、そりゃー忙しいはずですよ。社長「もうかりまっか!」（ちなみに本日夜9時過ぎ、いまだ取材中）

保田社長：あかん、あかん 今、何処の建築物も単価厳しいから、大変よー給水・下水（浄化槽）申請から始まって、現場やって、完成書類に まー水道屋さんの宿命やけど、人の倍仕事せなあかん。動いてなんぼやな!

おじゃマンⅡ号：現場も大変ですけど、社長業もこれから忙しいですね。

保田社長：これからも現場、現場で忙しいけど、先代社長も元気やし、弟（35歳）もいるし、付き合いもせなあかんので最近ゴルフもはじめた、こんど組合さんのコンペにも参加しようと思ってる。それに運動がてらプールにも行くんやけど組合の人にもよく会うわ、

おじゃマンⅡ号：あ一例の「とっつあんBOY'S」やな、津波対策に、仕事終わってから訓練してるみたいですよ、ちなみに情報によると漏水の現場で溺れた「とっつあんBOY」も訓練中?目の保養?・・・らしい。

保田社長：大丈夫!「とっつあんBOY'N」さんの救助は、我々チーム「もっこりドラゴンボート」におまかせあれ!（紀の水 第13号趣味のコーナー松谷設備チーム所属）



趣味のコーナー  
 ちゃんの  
**何と!**  
 驚きました  
**陸海空編**



趣味の農園にて 中村社長

ちゃんの『何と驚きました。趣味のコーナー』は、昭和39年海南市に設立、現在は和歌山市・紀の川市・有田市・紀美野町にまたがり、長男（46歳）次男（44歳）従業員13名（事務職4名）を育て上げ、「水道工事はドンと来い」、の有限会社 **中村工業社長 中村文雄氏**（昭和15年10月2日生・71歳）の趣味に迫ります。

**Uちゃん:** 中村社長、水道業なさってどのくらいになります？

**中村社長:** 19歳からはじめてもう半世紀越したな一、生まれは当時海草郡の岡崎（現和歌山市・岡崎）、昭和39年に海南へきて商売をはじめ、昭和50年に株式会社に、和歌山市の管組合へは、平成12年に加入した。

**Uちゃん:** 昭和15年生まれといえ、うちの濱本局長と同年齢ですね。局長も趣味豊富というか、人生豊富ですけど社長はズバリどうですか？

**中村社長:** そやなー、わしらの年代は、何も無い時代からはじめたさかい「仕事は自分でさがして、自分で作ってするもんや」でやってきたさかい仕事に興味がいってまうし、仕事が趣味になってしもたな一。趣味無いことないんやで、釣りもしたし、ゴルフもしたし旅行もあっちこっち行ったし 人一倍してきたよ。そやけど、モー卒業。

**Uちゃん:** 社長、元気やし、会社のほうも息子さん初め従業員さん皆、がんばってるし、あれこれ趣味もこれからちやいますん？

**中村社長:** それがこれからやねん。実は、去年ぐらいから畑づくりにはまってしまって「さー大変」・・・資材置場に草はえて、おなじ育てるならコーナンへ、買っては植え、植えては買い な

ずに、きゅうりに、トマトにかぼちゃ。山芋、里芋、さつま芋。いんげん、枝豆、生ビール？、みょうがときたら冷奴、大葉に三つ葉も出揃って、ついでに、ししとう、ピーマン、とうがらし、野菜も色々植えまくり。・・・おっと、野菜ばかりじゃ能がない、桃栗三年柿八年。すもも、やまもも、桃のうち、びわも蜜柑も紀州の名産、来年植えるぞ南高梅。ぶどう、いちぢく、さくらんぼここまで来たら全国区、梨にりんごも植えちゃた一、ついでにザクロも割れちゃた一・・・

**Uちゃん:** 社長、植えましたねー。まだ、ゆりにあじさい、菊もありますやん。資材置場半分になってますよ。それにしても世話大変でしょう。

**中村社長:** そりゃー、何でも世話は大変や、水やらなんし、肥料もまかんなんし、草引きもせんなんし、時間足らんくらいや。（会社に犬も2匹飼っている）やっぱりUちゃん、何でも愛情込めて一生懸命、世話せな育たんで！人も会社も。※ちなみに草引きは奥さんと共同作業らしい







## 編 集 後 記



花火の音が聞こえる季節となりました。暑中お見舞い申し上げます。本誌が組合員の皆様のお手元に届くころには、セミの声と共に、夏休みに入った子供達の声で、にぎやかな毎日が続いていることと思います。暑さきびしき折から、おからだにはくれぐれもご自愛の程・・・。

東日本太平洋沖地震が発生して、4ヶ月以上も過ぎているのに、復旧・復興の道筋がみえてこない被災地の皆さんの現状を思いますと、菅内閣のガヴァナンスの欠如を指摘せずにはおれません。菅総理、震災3ヶ月以上も経ってようやく復興基本法が成立したと思ったら、復興相が就任後9日で辞任。ガレキの撤去等復興に向けての作業が遅々として進まない現況、震災のため家を失い避難所生活を強いられている方。自宅が残っていても原発事故のため家に帰れない人達、目の前のことも解決出来ていないのに、将来の「脱原発」を表明する等、被災者の皆さんのことはもちろんのこと、こんな総理の元で、日本は本当に立ち直れるのか・・・心配せずにはおれません。報道機関の調査による内閣の支持率は12.5%とか、野党はもちろんのこと与党内からも現内閣では「復興のメドがたたないから辞任を」と要求されているにも拘らず「一定のメドがついてから」と菅総理は主張、メドのたたない難題を次から次へかかげ、いつまでもやるつものよ

うです。これでは被災地の皆さんをはじめ、復興をめざす日本経済にとって、最大の足かせになるのではと懸念せざるを得ません。いくら「やる気」があっても統治能力（ガヴァナンス）に欠ける者には、リーダーは務まらない。「危機」とは、良い方向あるいは、悪方向へ向かう転換点といわれていますが、日本は今、正に「危機」の状態にあるのではないのでしょうか。頼りがいのある肩幅の広い「できる指導者」の出現を期待せずにはおれません。遅くとも子供達の夏休みが終わるまで決着し「最大不幸社会」にならないよう願うものです。

やってくれましたねー。なでしこジャパン。サッカーの第6回女子W杯において、国際サッカー連盟ランク1位の米国（日本は同ランク4位）を相手に2-2からのPK戦を3-1で制し、見事初優勝を果たしました。国際サッカー連盟主催の大会で、日本が優勝するのは男女を通じて史上初めての偉業。試合後、選手達は世界中から寄せられた東日本大震災への支援に感謝する横断幕を揚げ、場内を一周、テレビ中継をみた被災地のみなさんのみならず、日本国民に大きな感動を与えてくれました。

がんばろう 日本!!

ありがとう なでしこジャパン!

(編集委員 H生)

## ■組合だより 紀の水

●発行



和歌山市管工事業協同組合

理事長 小 向 俊 和

●編集

紀の水編集委員会

〒640-8251 和歌山市南中間町12

TEL(073) 436-6801

FAX(073) 436-6804

URL <http://www.w-kankoji.com>

E-mail: [wakayama@w-kankoji.com](mailto:wakayama@w-kankoji.com)